

## 新連載執筆のねらいと執筆者紹介

### 遺跡からのメッセージ

桑原久男

『Glocal Tenri』創刊号の巻頭言によると、グローカリズムとは、グローバリズムとローカリズムを橋渡しした概念であり、地域と地球の二つを一つにした地域地球主義、「二つ一つ」の天理ということになるという。本連載が取り上げる各地の遺跡は、ある一つの地域における過去のローカルな人々が残したものであると同時に、当時のグローバルな交流や文化伝播の存在をも物語っている。また遺跡は、過去の所産であると同時に、いろいろな意味で、きわめて現代的な側面も併せ持っている。すなわち、遺跡というものは、ローカル、グローバルのみならず、「過去」と「現在」というもうひとつの「二つ一つ」を含み込んでいるのである。今回の連載では、筆者自身のささやかな体験も踏まえながら、遺跡がつなぐローカルとグローバル、過去と現在という「二つ一つ」を学問的に橋渡しする思考の試みを目指したい。

桑原久男（くわばら ひさお）

1991年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。現職は天理大学文学部教授。専門は、考古学・文化遺産学。国内外で遺跡の調査研究に携わるほか、文化遺産の保存と活用をめぐる現代的課題にも関心を持ち、取り組んでいる。近著の主要論文は、「古墳出現前夜のヤマト」『東大寺山古墳と謎の鉄刀』（東大寺山古墳研究会編、2010年）、「杣之内古墳群の保存・活用の現状と展望」『杣之内古墳群の研究』（杣之内古墳群研究会、2014年）、「遺跡という「場」をめぐる考古学と地域社会・観光の相克」『アメリカスのまなざし—再魔術化される観光—』（天理大学出版部、2014年）、「考古学から見た都市の形成と展開」『考古学からみた聖書の世界』（月本昭男先生退職記念献呈論文集第2巻、教文館、2014年）、「弥生絵画を絵解きする」『モノと図像から探る怪異・妖怪の世界』（勉誠出版、2015年）など。

### コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係試論

森 洋明

本論では、コンゴ共和国を中心に、その社会を通して、また人々の生活を通じて見えてくる諸相を紹介するとともに、その背景にある歴史的なできごとと触れ、時代を通じて常に大きな影響を及ぼしているヨーロッパとの関係、とくに旧宗主国のフランスとの関係に言及していきたい。そして、コンゴとフランスというローカルな枠組みから、アフリカとヨーロッパというよりグローバルな枠組みに視点を転じ、双方が相互に依存してきた関係が概観できればと考えている。

## 新刊紹介



### ギリシア考古学の父シュリーマン ティリンス遺跡原画の全貌

編者：天理大学附属天理参考館  
発行所：山川出版社

現在、天理参考館で開催中の天理大学創立90周年記念特別展「ギリシア考古学の父シュリーマン」のカタログ。同館や天理図書館所蔵の貴重な資料を紹介しながら、シュリーマンという人物に迫っています。

おやさと研究所にはホームページがあります。  
(<http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/>)

検索サイトで「おやさと研究所」と入力すれば、簡単にアクセスできます。また、天理大学のホームページの「教育・研究」の項目からも入れます。

研究所のホームページでは、研究所設立の理念や研究所員の情報、また定例の研究報告会や伝道、宗教（一般）に関する研究会の報告などが掲載されています。その他、イベントの情報や研究所から出版されている書籍の一覧もあります。

本誌『グローバル天理』（2010年以降分）も、ホームページ上で公開しておりますので、是非ご覧下さい。

グローバル天理

第16巻 第6号（通巻186号）

2015（平成27）年6月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 深谷忠一

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

印刷 天理時報社

Printed in Japan